

西郷頼母（一七〇〇石）は、西郷近思、（小森）律子の嫡男として天保元年（一八三〇）三月二十四日屋敷で誕生。

幼名は龍太郎、諱（いみな）は近恵（ちかのり）、号は栖雲（せいうん）、後に酔月、八握髯翁（やつかぜんおう）という。妻は、飯沼千重子。子は七人。

慶応四年（一八六八）八月二十三日、嫡子吉十郎を除き一族二十一人が自宅の大広間で自刃。発見は、薩摩藩の中島信行。

頼母は、八月二十六日夜、吉十郎を伴い西出丸から荷車とともに城を出ます。容保公は、表向き越後口の萱野権兵衛長修（ながはる）へ、帰城するように伝言するという軽い名目で城を出させます。途中、築瀬三左衛門と会い、城に留まるよう勧められるが、丁重に断ります。「軽き使者の任を仰せつかり」と『栖雲記』で述べていますが、容保公から重要な密命二件を受けます。道中、家老梶原平馬の追手が差し向けられますが、頼母を追いませんでした。二十七日、神指高久から塩川、北塩原大塩、米沢へ行きま

す。その後、十月十二日松島沖から榎本武揚の開陽丸に乗り箱館に渡ります。

明治八年、棚倉都々古別神社の神官
明治十三年から二十年まで日光東照宮の宮司と禰宜（ねぎ）

明治二十二年から三十二年まで伊達霊山神社の神官

明治十二年、吉十郎が二十二歳で死去。甥の志田四郎（姿三四郎のモデル）を養子とし、大東流合気柔術を教えます。

明治三十二年四月一日、神官生活をやめ若松に帰り、「十軒長屋」で、下女のお仲と暮らしていました。

明治三十六年四月二十八日午前六時 七三歳で逝去。死因は脳卒中中。

家老 西郷頼母

西郷頼母の墓は会津若松市北青木の善龍寺墓地にあります。



密命の真相

一 米沢・仙台藩の協力要請

八月二十九日頃、米沢藩へ向かったと思われませんが、記録はありませんが、新選組とともに箱館に行っていることから土方歳三と行動は一緒だったと思われま

二 埋蔵金は軍資金

会津藩では、『簿曆』に慶応四年（一八六八）四月十九日、山川大蔵が鑄金

「香寿庵」の裏が、西郷頼母の家「十軒長屋」で、南側にありました。



について唐津藩の大老小笠原長行と御薬園で相談。『会津戊辰戦史』慶応四年春、海老名郡治を奉行に、百二十万両（約四十八億円）の錢貨を「御城吹」と称し、西出丸で鑄造。その半分は、金と銀の装飾品を供出した藩士や庶民に戻され、残りは軍資金とします。敗戦後、錢貨造りに関わった職人は、「軍司方」と称し、贖金を作つたため、明治二年五月新政府は、贖金の製造と流通を禁止し、約千二百人を捕えます。回収できたのは、約十八万両でした。

